

近隣施設の影響 – 近隣の産業施設における火災・爆発事故の影響 –

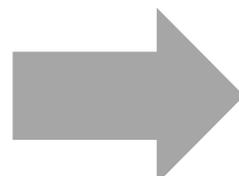


ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.56、57

発電所周辺の道路で危険物を輸送する車が爆発しても大丈夫なのか、今後、危険物を貯蔵する施設が新設された場合、どのように安全性を確保するのか。

ワーキングチームにおける論点名称：
爆薬や弾薬等の輸送車の爆発による敷地への影響について（論点56）、東海第二発電所に影響を及ぼす範囲に危険物の貯蔵施設等が新設される可能性（運用等に関するを含む）及び新設される場合における原子炉施設の安全性への影響評価や対応に関する考え方について（論点57）



第16回ワーキング
(2020.2.7) で議論

ワーキングチーム検証結果

輸送車両が爆発しても発電所には悪影響はないこと、施設が新設された場合も安全性を確保するための規定を定めることを確認

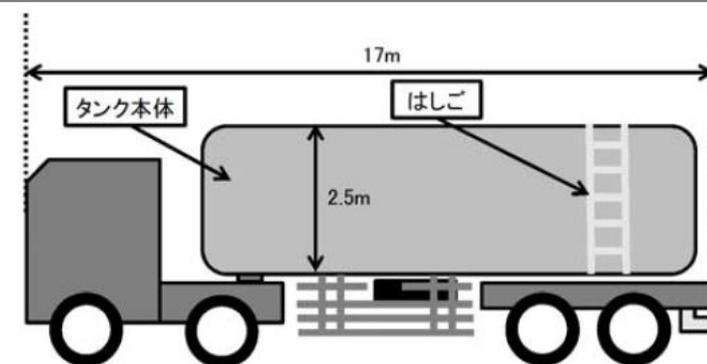
- 発電所に最も近い国道において、車両で輸送できる最大規模の燃料や爆薬などが爆発しても、道路から安全施設までは距離があることなどから、安全対策施設への悪影響はない。
- 定期的に周囲の危険物貯蔵施設などの新設の有無の確認を行い、施設が新設される場合は影響評価を実施する。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）



○最も近い国道において、車両で輸送できる最大規模の燃料や爆薬、弾薬が爆発した場合であっても、最も近い評価対象施設（450m）に影響を及ぼさない。

○保安規定に基づき、周囲の危険物貯蔵施設などを定期的に確認し、新設があった場合など、近隣施設の影響に関する評価条件に変更が生じた場合は再評価する規定を定め、運用する。



【車両で輸送できる最大規模の想定】

- 車両で輸送できる最大規模であるLPガス15.1トンを加圧貯蔵して輸送する燃料輸送車両において爆発が発生し、車両の長さと同じ17m、71kgの鋼製はしごや直径2.5m、重量約3トンのタンク（鋼板）が飛散することを想定。
- 鋼板は飛散しても安全対策設備には届かなかった。
- 鋼製はしごは安全対策設備に届いたものの、竜巻による影響評価の際に想定していた135kgの鋼材より重量が少ないことなど、安全対策設備への影響はないことを確認。